

大学進学前に、麻しん、日本脳炎ワクチンを

2008.01.30

1 月も下旬になり、函館近郊ではインフルエンザの猛威が始まってきたようです。家庭での手洗いうがいはもちろんのこと、子どもを不用意に人混みに連れていかないことが一番重要です。

大学のセンター試験も終わり、今年の春に親元を離れ羽ばたく子ども達。昨年、多くの大学で、麻しんの流行があり、世間を騒がしました。札幌の大学でも麻しんの発生があり、大学入試の会場を急遽変更したというニュースも流れてきました。

天然痘がワクチンを接種することで全世界からなくなったのと同様に、麻しんもワクチンをしっかりすることで全世界からなくすことができる病気だとWHOはいつているのですが、日本はまだまだその点では後進国のようです。

今年の4月から、中学1年生と高校3年生に麻しんと風疹のワクチンを5年間にわたってすべく準備が進んでいます。しかし、残念ながら今年卒業する子ども達はその恩恵にあずかることが出来ません。その昔、麻しんはワクチンをするとう免疫が一生続くといわれてきましたが、子ども達の周りで麻しんが減ってウイルスにさらされることもなくなってしまい、ワクチンの効果も1回ではなかなか一生の免疫には出来ないことがわかっています。そのために、2度目のワクチンが必要とされているのです。2年前から小学校に上がる前の年長さんに2度目のワクチンをするように制度が変わりました。その制度から外れる人にこれからワクチンをとったわけですが、今年卒業する高校生にもぜひワクチンは打ってもらいたいものです。

また、北海道に住んでいるうちは媒介する蚊がいないという理由で日本脳炎のワクチンも打たないで済んでいましたが、これからの進学や就職を考えた場合、本州方面では日本脳炎の発生が少ないながらも続いておりますので、あわせて親元を離れる前に受けてもらいたいものです。

日本脳炎ワクチン、麻しんワクチンとも品薄状態が続いていますので、接種を希望される方は早めにかかりつけにご相談ください。